

令和2年度「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：33061
学校名：開成中等教育学校

改訂のポイント		<p>○教職員、生徒、保護者が「学ぶ力」の伸長を重視して取り組む</p> <p>○「学ぶ力」をIB（MYP）の学習の方法（ATL）を用いて獲得、評価</p> <p>○学習の方法（ATL）</p>		
項目名	項目内容	項目内容の具体		
目標	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	<p>☆難しいことにも、失敗を恐れないで挑戦する生徒。</p> <p>☆生活を自らコントロールする力を育み生徒。</p>		
「学ぶ力」に関する成果や課題	学ぶ意欲	<p>【昨年度の具体的な取組】 IB/MYPの原則に基づいた単元計画とその実践 各教科等で共通した学習の方法（ATL）の育み ○自己管理（情動スキル：自己動機づけ）</p>	<p>【成果】 肯定的な回答が多い質問は次のとおりである。 ・「分からないことは、自分で調べてはっきりさせようとしている」肯定的な回答が89.7%⇒92.1% ・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある」肯定的な回答が80.1%⇒86.2% ・「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」肯定的な回答が89.6%⇒94.1%</p>	<p>【課題】 ◇差別化・個別化による学習支援 ◇「普段から、計画を立てて勉強している」に対して肯定的な回答が54.7%</p>
	思考力・判断力・表現力等	<p>【昨年度の具体的な取組】 IB(MYP)の原則に基づいた単元計画とその実践 ○各教科等で共通した学習の方法（ATL）の育み（最重点） ・思考（批判的思考、創造的思考、転移） ・コミュニケーション（情報を集め、やりとりするために、言語を読み、書き、そして用いる） ・リサーチ（情報リテラシースキル：情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する）</p>	<p>【成果】 全教科において、単元の総括的な課題はレポートになる場合が多い。年間を通して、その内容の変容から思考力・判断力・表現力の伸長が見取れた。更に、生徒の自己評価において、表現力の高まりを実感する内容も多く見取れた。</p>	<p>【課題】 ◇「授業中、自分の意見を進んで発言している」に対して肯定的な回答が65.1%</p>
	基礎的・基本的な知識及び技能	<p>【昨年度の具体的な取組】 IB(MYP)の原則に基づいた単元計画とその実践 各教科等で共通した学習の方法（ATL）の育み ○コミュニケーション（情報を集め、やりとりするために、言語を読み、書き、そして用いる） ○リサーチ（情報リテラシースキル：情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する） ○思考（転移）</p>	<p>【成果】 暗記ではなく知識の活用（レポートや発表、ディベートや話し合い）の場面が多く求められるため、生徒自身が必要感をおぼえて知識を取り入れようとしていた。その結果として、基礎知識の定着率が良いのではないかと考えられる。</p>	<p>【課題】 ◇「新しく習ったことは、くり返し練習をしている」に対して肯定的な回答が51.3%</p>

改善策 (取組) 今年度の具体的な	取組の最重点	<p>【取組の共有】</p> <p>生徒は身に付けた MYP の学習の方法 (ATL スキル) を用いて、主体的に学習を進めることができる。教職員は具体的なフィードバックを定期的に行い、形成的評価を提示する。</p>
	具体的な改善策 (取組)	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度実施した各教科の Unit Planner (単元計画) において、評価計画などに重点をおいて更新。 ○協働的な学習場면을重視し、個々の発言が促進され、互いを高めるような学習環境の整備。 ○生徒が学習の方法 (ATL スキル) を意識して取組み、振り返ることができる学習環境の整備。 ○総括的な評価課題と形成的評価が密接につながるよう Unit Planner (単元計画) 及び評価計画を立てる。
検証の方法	各種調査や子どもの自己評価指標の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が授業時と単元終了時に取組む「振り返り」の分析 ○全国学力・学習状況調査や学校独自の調査結果等を分析 ○札幌市全体の共通指標 (子どもの自己評価) の分析